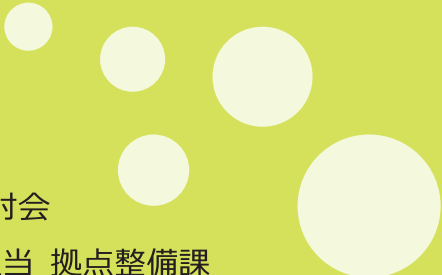


# とうきょうスカイツリー駅北側地区 まちづくり検討会の成果



押上・とうきょうスカイツリー駅周辺まちづくり検討会  
事務局 墨田区都市整備部立体化・まちづくり推進担当 拠点整備課  
編集・作成 株式会社 UR リンケージ

## 目次

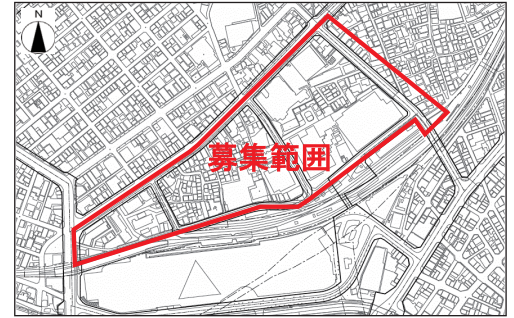
1	まちづくり検討会の成果の概要	_____	1
2	まちづくり検討会の参加者・経緯	_____	1
3	グループワークのまとめ	_____	2
4	グループワークの詳細	_____	11

# 1 まちづくり検討会の成果の概要

まちづくり検討会の成果は、まちづくり検討会の各回で議論した内容を取りまとめ  
ており、まちづくり案とりまとめの基となるものです。

# 2 まちづくり検討会の参加者・経緯

まちづくり検討会では、右図の募集範囲内から応募が  
あった住民、法人と関連する町会から推薦を受けた方を  
参加者とし、検討を進めました。



検討にあたっては、A、B、C班の3班に分かれて、それ  
ぞれのグループワークを実施しました。

## まちづくり検討会参加者

荒川 茂夫	岡安 潤	高際 照幸	藤井 啓子	渡辺 泰充
五十畑 雅章	佐藤 由哉	田口 真義	淵田 安浩	東武鉄道株式会社
稲葉 絵里	鈴木 玉江	徳丸 裕樹	三間 典彦	住友不動産株式会社
大柳 強	高際 幸二	友利 麻恵	八巻 千恵子	

事務局：墨田区 都市整備部立体化・まちづくり推進担当 拠点整備課  
課長 和田 聖子(令和3年度) 課長 前田 武(令和4年度) 込江 昭平(令和3年度)  
伊藤 隼佑 平山 なつか 大櫛 航平 古田 拓巳

事務局補佐：株式会社URリンケージ  
水野 卓 三谷 彩子 橋本 恵里 柳田まどか

令和3年9月6日(月)～9月21日(火) 参加者募集

## まちづくり検討会

- |     |               |                               |
|-----|---------------|-------------------------------|
| 第1回 | 令和3年10月23日(土) | まちの課題や魅力、ポテンシャルを考える           |
| 第2回 | 令和3年12月11日(土) | 30年後の過ごし方を想像し、まちづくりの方向性を考える   |
| 第3回 | 令和4年2月5日(土)   | 「様々な人物像による30年後のまちでの過ごし方」の確認   |
| 第4回 | 令和4年4月23日(土)  | 「まちの安全・安心」をテーマにまちづくりの取り組みを考える |
| 第5回 | 令和4年5月21日(土)  | 「まちで暮らす」をテーマにまちづくりの取り組みを考える   |
| 第6回 | 令和4年6月25日(土)  | 「まちを楽しむ」をテーマにまちづくりの取り組みを考える   |
| 第7回 | 令和4年8月27日(土)  | まちづくり案のとりまとめ                  |
| 第8回 | 令和4年11月5日(土)  | まちづくり案修正版の確認                  |

令和4年12月開催予定 まちづくり意見交換会 (自由参加)

## まちづくり検討会

- |     |            |                          |
|-----|------------|--------------------------|
| 第9回 | 令和5年1月開催予定 | 住民からの意見を踏まえたまちづくり案のとりまとめ |
|-----|------------|--------------------------|

# 3

## グループワークのまとめ

まちづくり案の「6. まちづくりの目標」と「7. まちづくりの方向性」は、ここに掲載している各班のグループワークの成果をもとにとりまとめたものです。

曳舟や浅草などの周辺のまちの特性等の印象や、押上・とうきょうスカイツリー駅周辺のまちとの関係性を整理し、現在はどんなまちなのか、今後どんなまちになっていきそうか将来の可能性についてまとめました。

### ■ 周辺地域のまちの印象と押上の将来の可能性

#### 浅草の印象

- ・一大観光地という文字通りの印象がある一方で、歩いて行ける身近な所というイメージがある。
- ・近くに住んでいない人はイベント等で行く所で、普段は絶対に行かない場所である。
- ・浅草からスカイツリーへの人の動きはあるが、スカイツリーから浅草への動きはあまりない。

#### 向島の印象

- ・昔の向島は花街としてとてもにぎわっていたが、料亭が少なくなり、跡地はマンションになり、住宅地へと変わってしまった。

#### 曳舟・京島の印象

- ・芸術や工芸などの面白いものを作っている人達が沢山いる。
- ・昔は工場だけでなく、映画館などもあり、繁華街でもあった。
- ・昔はローカルなイメージだったが、今は再開発で都会的なイメージになった。
- ・再開発は、良いという人もいるのかもしれないが、昔のまちの雰囲気は全くないため、残念に思う。

### 押上の将来の可能性

#### A班

- ・両国・錦糸町に続く第三の繁華街になることが予想されるが、現在のように、行き止まりで車が入ってこない路地で子供が遊んでいるようなにぎやかさになってほしい。
- ・小梅児童遊園がきれいに整備されたが、遊具が減り、子供向けではなくなった。また、隅田公園は、この近所の子供が遊びに行くには遠く、地元の人たちはあまり行かない。
- ・駅の北側と南側で雰囲気が違う。南側には昔ながらの商店街もあり、今後どう変わっていくのが気になる。
- ・交通の便が良い

#### B班

- ・今の住環境は守りつつ、ミズマチや隅田公園のゆったりとした緑地空間、浅草からスカイツリーの観光、京島や東向島などの芸術・工芸等のにじみだしを受けるまち。
- ・また来たいと思ってもらえるような、下町の雰囲気が感じられるまち。
- ・周囲の緑地空間やにぎわい、産業等のにじみだし、人がゆったりと過ごせる空間は良いが、自動車・騒音・排気ガスは増えないようにしたい。

#### C班

- ・南側はスカイツリーが特徴的だが、スカイツリーはまちに閉じているため、ああいうにぎわいではなく、蔵前のような、まちに点在する良い店や場所を発掘するようなまちにしたい。
- ・防災やにぎわいを考慮し、1階や2階を店舗にして、3階を住居にする等の下町風情のある街並みがつながっているまちになってほしい。
- ・緑がもっとたくさんあって、閑静な住宅街になってほしい。

#### 両国の印象

- ・国技館の相撲が有名である。
- ・歴史・文化を感じる
- ・趣がある。
- ・住宅も多い。

#### 錦糸町の印象

- ・子供が行くような場所ではない繁華街だが、大人が行くと楽しいまちである。
- ・ショッピングに行くまちでもある。
- ・北側には住宅が多く、公園もある。

周辺のまちの印象や押上のまちの魅力や課題、今後起こりそうなことや変化等を踏まえて、まちの変えたいこと、変えたくないことについてまとめました。

## ■ 今後、変えたくないこと・変えたいこと・考えなければいけないこと

### 変えたくないこと

- ▶ **住環境**
  - 下町ならではのコミュニティ、文化(A・B班)
  - 住みやすい静かな住環境(A・B・C班)
  - 保育園等があり、子育てしやすい環境(A・B班)
  - 路地など、子供たちが安全に遊べる場所(A・B班)
  - 高い建物が少なく、隅田川花火大会が見えること(B班)
  - チェーン店があまりないこと(B班)
- ▶ **産業**
  - ものづくりのまち(A班)

### 変えたいこと

- ▶ **住環境**
  - 近くに生活利便施設、スーパーがないこと(B班)
- ▶ **公園・広場**
  - 緑や公園など住民が立ち寄り集まったりできる広場がないこと(A・B・C班)
- ▶ **にぎわい**
  - 地域の魅力の発信方法(B班)・スカイツリーのような観光ではなく、違う視点の観光(C班)
- ▶ **防災**
  - 地域の人が災害時に逃げられる場所がないこと(A・B・C班)
- ▶ **産業**
  - 町工場が区内に点在しており、効率が悪いこと(A班)
  - ものづくりというまちが次世代に継承されていないこと(A班)

### 考えなければいけないこと

- ▶ **住環境**
  - 住みやすい住環境を維持しつつ、まちを更新すること(A・B・C班)
  - 下町の文化や風情を残したい一方で、不燃化や空き家などに対応していかななくてはならないこと(A・B・C班)
  - 子育て世代や若い人たちを増やすため、住まいのバリエーションを増やす(A班)
- ▶ **公園・広場**
  - 緑・公園がないこと(A・B・C班)
- ▶ **にぎわい**
  - にぎわいは欲しい一方で、スカイツリー一極集中ではないまちへの広がり(C班)・ポイ捨てなど、来街者が増えることで起きる課題への対応(B班)
- ▶ **防災**
  - 避難場所の確保の仕方(C班)
- ▶ **産業**
  - ものづくりのまちということを伝えていく視点(A班)

住民が求める「安心して住み続けられるまち」を目指すため、「暮らす」「楽しむ」「防災」の3つの視点でまちづくりの目標や方向性等についてとりまとめました。

なお、まちづくり案の「6. まちづくりの目標」や「7. まちづくりの方向性」は、各班の検討内容を基にとりまとめています。

## A班

### 暮らす

目標：コミュニティと静かな住環境を維持・発展させていくまち

#### まちづくりの方向性

##### 地域コミュニティ

- ・場所やイベントなどの人が集まる仕組み

##### 住みやすさ

- ・新しく住み始めた人たちを地域コミュニティに巻き込む仕掛け
- ・新しくできる店と地域住民が共存できる仕組み
- ・まちづくりのルール

##### 地域産業

- ・現状や課題を見える化する仕組み
- ・新しいプレイヤーに情報を届ける仕組み
- ・ものづくりを継承する仕組み、仕掛け

##### 安心できる環境

- ・地域コミュニティを形成する仕組み

詳細は本書19ページに掲載

### 楽しむ

目標：落ち着いたにぎわいで住民も来街者も楽しいまち

#### まちづくりの方向性

##### 押しらしいにぎわい

- ・住民が集まる、利用する場の整備
- ・住民も来街者も目で見てわかるような仕掛け
- ・見せる情報発信
- ・物を作る場所、売る場所を結びつける仕組み、ハブ機能

##### 周辺地域とのつながり

- ・住民と来街者の共存、楽しみを両立できる仕組み
- ・住宅街に配慮した施設の配置

詳細は本書23ページに掲載

### 防災

#### まちづくりの方向性

##### 地震・火災

- ・情報発信、広報、手段を適切に行う
- ・安全な避難経路、避難場所を整備する
- ・災害に強い都市基盤の整備

##### 水害

- ・情報発信の多様化・多言語化を行う
- ・民間施設や広場の空間による垂直避難場所の確保と避難場所のバリアフリー化
- ・早めの避難行動呼びかけやサポートが必要な家庭を視覚化する

詳細は本書12ページに掲載

## B班

### 暮らす

目標：子どもと老人が集まれる場所（例えば、都営住宅跡地・東武の敷地）があるずっと住みたいと思うまち

#### まちづくりの方向性

##### 地域コミュニティ

- ・子どもが住みたいと思う地域コミュニティをつくる
- ・子どもや老人など横のつながりがある地域コミュニティをつくる

##### 住みやすさ

- ・まちづくりの約束事をつくっていく
- ・人と人のつながりがある地域活動の場

##### 地域産業

- ・住環境に配慮したものづくり（工房）の場
- ・高架下でものづくり発信

##### 安心できる環境

- ・誰もが安全に移動できる道路空間
- ・人の目が届く地域コミュニティ
- ・まちづくりの約束事をつくる

詳細は本書20ページに掲載

### 楽しむ

目標：緑豊かな子どもと老人が楽しめる空間のあるまち

#### まちづくりの方向性

##### 押上らしいにぎわい

- ・緑が多く、子どもが遊んでいる広場的空間（高架下等）
- ・住民が静かに楽しめる（キラキラ商店街のような）楽しさ

##### 周辺地域とのつながり

- ・住民向けの楽しさと来街者向けの楽しさの共有

詳細は本書24ページに掲載

### 防災

#### まちづくりの方向性

##### 地震・火災

- ・災害時の基本的行動の周知、啓発活動をする
- ・情報発信、広報、手段を適切に行う
- ・安全な避難経路、民間企業を含む複数の避難場所を確保する
- ・集合住宅等が機能不全に陥らない設備配備の支援をする

##### 水害

- ・災害時の基本的行動の周知
- ・多様な災害情報の発信方法
- ・墨田区との協定等による避難場所の確保

詳細は本書14ページに掲載

# C班

## 暮らす

### 目標：全世代型のメレンゲなまち

～ 子どもから高齢者まで、今までいた人も新しい人も、みんなが集まることで暮らしやすさの相乗効果が生まれるまち ～

#### まちづくりの方向性

##### 地域コミュニティ

- ・今あるものや機会を活かし、多世代・多様な住民を巻き込む、地域の「居場所」を創出する

##### 住みやすさ

- ・あらゆる世代が住みやすい住環境の維持

##### 地域産業

- ・将来の「押上ならでは」を担う文化や特色を創出する

##### 安心できる環境

- ・あらゆる世代が安全に歩ける歩行空間の創出
- ・歩車（自転車）分離された安全な道路空間の創出
- ・地域コミュニティを活用した防犯意識の啓蒙

詳細は本書21ページに掲載

## 楽しむ

### 目標：うれC、たのC、おいC、「うけち」タウン

～元々あったものを再発掘～

#### まちづくりの方向性

##### 押上らしいにぎわい

- ・既存の良いもの（にぎわい）を再発掘する
- ・「にぎわい」に来てもらえる情報発信の仕組みを考える

##### 周辺地域とのつながり

- ・周辺地域とつながる、「周りもおいC」コラボレーションするものをつくる

詳細は本書25ページに掲載

## 防災

#### まちづくりの方向性

##### 地震・火災

- ・災害時の基本的行動の周知、地域住民の防災意識向上にむけた啓発活動をする
- ・受動的に災害情報が受け取れる仕組み
- ・安全な避難経路、民間企業を含む複数の避難場所を確保する
- ・市街地が機能不全に陥らない大型非常電源等の設備配備

##### 水害

- ・災害時の基本的行動の周知、地域住民の防災意識向上にむけた啓発活動をする
- ・受動的に災害情報が受け取れる仕組み
- ・安全な避難経路、高台や地下シェルター等多様な避難場所を確保する
- ・市街地が機能不全に陥らない大型非常電源等の設備配備

詳細は本書16ページに掲載



鉄道高架化による南北市街地の一体化や高架下の利用、道路や交通広場の整備等により、30年後のまちには、住民だけでなく様々な人が訪れ、まちで過ごすことが予想されます。

そこで、まちづくりの方向性を考えるため、30年後のまちをイメージしながら、まちに関わる人物像になりきり、こんな過ごし方ができるまちにしたいというイメージをとりまとめました。

## 将来 (205X年) のまちでの具体的な過ごし方をおして

今からおよそ30年後の将来 (205X年)。

押上にあの大きな電波塔ができてから40年、  
鉄道の高架化で駅も駅前も様変わりしてから  
20年余りが経ちました。

「あそこに大踏切があってね…。」

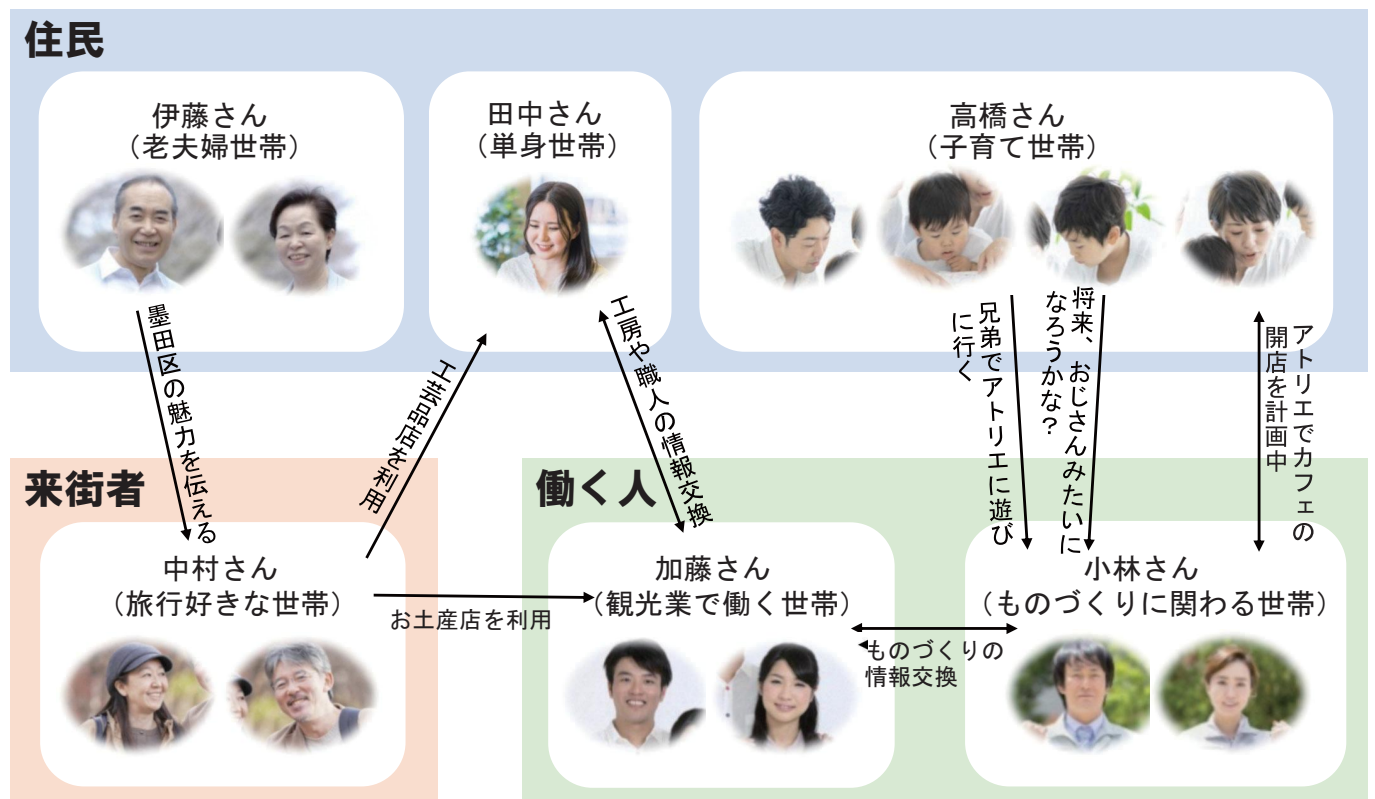
と始まる父の思い出話に踏み切り待ちの感覚  
すらわからない新成人の娘。

そんな将来の押上・とうきょうスカイツリー  
駅周辺のまちは、下町の魅力を残しながら、  
便利で落ち着いたにぎわいのあるまちへとなり、  
多様な人が住み、訪れるようになりました。

将来のまちでは住民、来街者、働く人がそれぞれ  
素敵な過ごし方をしています。



### ■人物相関図 (30年後のまちに関わる架空の人物)



## 田中さんの過ごし方（単身世帯）

A班



### プロフィール

#### 世帯構成

本人（34歳）

#### 経歴

30歳まで海外で仕事をしていましたが、日本に帰国し、押上に住み始めた。現在は、来街者向けに鉄道高架下で工芸品等の販売を通して、墨田区の情報発信を行っている。

#### 趣味

まちの散策、食べ歩き、人との交流

### 生活スタイルとまちでの過ごし方

海外にいる時から、日本では下町の雰囲気が残るまちに住み、日本の文化を発信する仕事をしたいと思っていた。そんな時、押上は下町の雰囲気が残る静かな住環境※1で、交通の便も良く※2、暮らしやすそうなまちだと知った。

帰国してからは押上に住み、高架下の工芸品店で働き※3始めてから数年が経った。同じく高架下で工芸品を扱うお土産店とは、区内の工房や職人について情報交換※4をしている。

仕事が終わると、駅周辺で買い物※2をしたり、まちのこじんまりとした飲食店で食事※5をしている。

休日は川沿いでランチ※6やランニング※7をしたり、浅草散策※8や町工場めぐり※9をしている。

最近では、近くの神社のお祭り※10で御神輿を担ぐようになり、近所に顔見知り※11も増えてきた。まちなかで会えば、気軽に挨拶を交わす※11この地域は、安心して一人暮らしができる※12まちだと思っている。

#### まちづくりのヒント

- ※1 下町の雰囲気が感じられる静かな暮らし
- ※2 他地区まで通いやすい暮らし
- ※3 すみだのものづくりを発信
- ※4 地域の魅力の情報交換と発信
- ※5 落ち着いた飲食店での食事

- ※6 川沿いでランチ
- ※7 川沿いでランニング
- ※8 近隣観光地等の散策
- ※9 町工場めぐり
- ※10 地域のお祭りに参加
- ※11 気軽なご近所付き合い
- ※12 安心できる暮らし

## 中村さん家族の過ごし方（旅行好きな世帯）

A班



### プロフィール

#### 世帯構成

妻（54歳）／夫（55歳）

#### 経歴

結婚を機に静岡に住み始める。2人でよく旅行をして思い出を作る等、仲の良い夫婦。夫婦ともに市内のオフィスに勤務しており、子供たちは独立して夫婦2人で暮らしている。

#### 趣味

妻：旅行、博物館・美術館巡り  
夫：旅行、カメラ

### 生活スタイルとまちでの過ごし方

旅行が好きな2人は、どこに行こうか考えるのが日課になっている。県外への旅行の際は、電車や飛行機などの公共交通機関を利用するので、新幹線で1時間程度の東京は週末に気軽に行く旅行先としてちょうどいい。

中でも押上は、水上バスでも行くことができ※1、スカイツリー周辺の雰囲気の良い飲食店※2やものづくり体験※3、まち歩き※4など楽しみ方がたくさんあり、よく訪れるまちだ。今回も、週末を押上で楽しむことにした。

一見、スカイツリーばかりに目が行きがちだが、周辺を散策してみると、個性的なお店があり、地元の人と観光客が入り混じっていて、押上のまちはとてもにぎやかになった。町工場めぐりのまち歩きツアー※5でガイドをしてくれた人に教えてもらった、地元の人がよく行く食事処※6にも行ってみたいと思う。

#### まちづくりのヒント

- ※1 水上バスで押上に行く
- ※2 雰囲気のよい飲食店で食事

- ※3 ものづくりの体験
- ※4 まちあるきツアー等への参加
- ※5 町工場をめぐる
- ※6 落ち着いた飲食店で食事

詳細は本書27ページに掲載

## 伊藤さん家族の過ごし方（老夫婦世帯）

B班



### プロフィール

#### 世帯構成

妻（67歳）／夫（67歳）

#### 経歴

千葉県に住んでいたが、下町の雰囲気が入り、押上に戸建て住宅を建てて引っ越してきた。  
現在、押上に20年ほど住んでおり、子供たちは独立して夫婦2人で暮らしている。

#### 趣味

妻：生け花 夫：書道、散歩

### 生活スタイルとまちでの過ごし方

夫は会社を定年後、ボランティアで町工場めぐりのまち歩きツアーガイド※1をしている。

墨田区は坂が少ないため、散歩がしやすい※2。向島や曳舟まで散歩※3しながら工芸品店や喫茶店などに立ち寄り※4、新たな魅力を発見することが楽しみになっている。

また、趣味の書道を活かした習字教室※5を開き、地域の子供から高齢者まで多世代と交流※6をしている。

妻は、趣味の生け花教室の友達と、地域に昔からある喫茶店でコーヒーを飲みながら、井戸端会議※7をするのが日課となっている。

健康管理という面では、近所に通いやすい病院※8もあり、何不自由ないこのまちをとて気に入ってる。

休日に子供たちが孫を連れて遊びに来た時は、自宅近くの広場でボール遊び※9をしたり隅田公園で遊んでいる。

外食時には、昔から家族でよく行っているレストラン※10に孫を連れていき、気兼ねなく過ごしている。

#### まちづくりのヒント

- ※1 まち歩きのボランティア活動
- ※2 歩きやすいまちを散策
- ※3 近隣の魅力的なまちを散策
- ※4 点在している魅力的なお店を訪問
- ※5 趣味を活かした教室の開設
- ※6 多世代との交流
- ※7 趣味を通じた人との交流
- ※8 通いやすい医療機関
- ※9 公園でボール遊び
- ※10 昔からあるレストランで食事

## 加藤さん家族の過ごし方（観光業で働く世帯）

B班



### プロフィール

#### 世帯構成

妻（33歳）／夫（35歳）

#### 経歴

結婚を機に、墨田区内にマンションを借りて住み始めて5年になる夫婦。  
夫婦ともに昔ながらの工芸品を扱うお土産ショップで働いている。

#### 趣味

妻：お菓子作り 夫：料理、食べ歩き

### 生活スタイルとまちでの過ごし方

普段は、とうきょうスカイツリー駅高架下にあるお土産店※1で働いている。お昼休みは、近くの公園でお弁当を食べて※2過ごしている。

店で販売している墨田区の工芸品の制作者と購入者がつながれるような取り組み※3ができないかと考えており、同じく高架下で工芸品を販売しているお店との情報交換※4や、工房の職人との打合せ※5などもしている。

毎日夜遅くまで働いているため、職場の近くに引っ越したい※6と考えており、休日は物件探しをしている。

将来は、妻の趣味であるお菓子作りを活かしたカフェが併設された工芸品販売店※7を開きたいと考えている。

#### まちづくりのヒント

- ※1 高架下でのものづくり販売
- ※2 公園でのランチ
- ※3 工房・職人と購入者のコミュニティ形成
- ※4 ものづくりに関する情報共有
- ※5 職人とのコミュニケーション
- ※6 職住近接の暮らし
- ※7 ものづくりと融合したカフェの開設



## プロフィール

### 世帯構成

妻（40歳）／夫（43歳）／  
長男（9歳）／次男（6歳）

### 経歴

妻は結婚を機に、とうきょうスカイツリー駅周辺のマンションに住み始める。子供が大きくなったので、パートを始めた。夫は独身時代から墨田区に住んでおり、平日は都心へ通勤。長男・次男は近隣の学校に通う小学生で、地元のスッカークラブに通っている。

### 趣味

妻：ショッピング、ヨガ  
夫：ウォーキング  
長男・次男：サッカー

## 生活スタイルとまちでの過ごし方

豊かで充実した生活を送りつつも、平日は仕事や学校、週末は子供のサッカークラブの送り迎え、買い物や用事はインターネットで済ませるなど家族全員忙しく、今はまちをゆっくり散歩するような時間がなかなかとれない。

妻は、便利以上に緑や公園が多く※1、お洒落なお店が点在※2するこの地域を気に入っており、もう少し子供に手が掛からなくなったら、今のパートは辞めて近所の貴金属アトリエの画でカフェを開かせてもらう※3予定でいる。

夫は、趣味である散歩※4を再開したいと考えており、もう少し子供に手が掛からなくなったら、独身時代に通った古き良き下町を感じられる横丁で、休憩がてら一杯やりたい※5と思っている。

長男と次男は、生まれ育ったこの地域が大好きである。学校で金物づくりを教えてくれた※6おじさんのアトリエが近所にあり、お母さんの仕事が終わらない時は、アトリエで遊ばせてもらっている※7。長男は、将来サッカー選手になれなかったら、おじさんみたいな仕事をしてみたいな、と思っている。

### まちづくりのヒント

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ※1 利便性の高い暮らし        | ※4 まちの散歩      |
| ※2 お洒落なお店での買い物や食事   | ※5 趣のあるお店での飲食 |
| ※3 ものづくりと融合したカフェの開店 | ※6 ものづくり体験    |
|                     | ※7 下町ならではの人情  |



## プロフィール

### 世帯構成

妻（36歳）／夫（40歳）

### 経歴

墨田区出身、町工場の3代目で金属加工業を営んでいる。数年前に工場を継いで、自宅兼工場働いている。小学生の工場見学を受け入れる等、ものづくりを次世代に継承することに熱心な夫婦。

### 趣味

妻：映画鑑賞、ジョギング  
夫：近所の店に飲みに行く

## 生活スタイルとまちでの過ごし方

家業を継いでから町工場を開放的なアトリエ風に改装※1した。中小企業の技術が注目されていることもあり、事業が軌道に乗ってきたところである。まちの変化とともに、新たに移り住んできた住民とも積極的にコミュニケーション※2を取っている。

夫は時々、近所にある小学校の社会の授業で、金物づくりについて教えている。※3今の子は手でものを作る機会が少ないので、作業体験などはとても楽しそう。ものづくりに興味を持った子の一人がアトリエに遊びに来るようになり、その縁で、お母さんと知り合いになった。いずれ、一緒にアトリエでカフェ※4を開くことを計画している。

夜は、墨田区らしい下町の雰囲気が残る横丁の飲み屋で、町会の集まり※5がある。この地域から何か発信できないか、高架下のお土産店と今晚も飲み交しながら※6考えよう。

妻は美大で学んだ知識を活かし、洒落たアクセサリーを作ってアトリエで販売している。ネット販売も良いが、近所の人々がふらっと立ち寄り買ってくれる※7方が嬉しい。

このまちは大好きだが、夫といつも一緒なので、たまに一人でのお出かけもしたい。今度、浅草のミニシアターでやっている古い映画でも観に行こう※8と思っている。

### まちづくりのヒント

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| ※1 地域に開いたものづくり活動  | ※4 ものづくりと融合したカフェの開店 |
| ※2 新住民とのコミュニケーション | ※5 ご近所付き合い          |
| ※3 ものづくりの継承       | ※6 ものづくりの情報交換・発信    |
|                   | ※7 気軽なご近所付き合い       |
|                   | ※8 近隣観光地等の散歩        |

## 4 グループワークの詳細

### ■ 検討のテーマ

「まちの安全・安心」をテーマにまちづくりの取り組みを考える

### ■ 検討の概要

これまで重点的に取り組まれてきた地震や火災に対する備えの他に、近年増えているゲリラ豪雨などの水害に対する備えも必要となっており、地区内の防災力を高めるまちづくりは、安全に住み続けられるまちを目指していく上で重要な土台となります。

そのため、災害に強い建物への建替えや改修のみにとどまらず、「地域で取り組むまちづくり」という視点で、防災性の高いまちの実現に向けた検討を行いました。

検討の内容は、本書4～6ページの各班のまちづくりの方向性としてとりまとめられています。

次のページから各班のグループワークの成果について掲載しております。



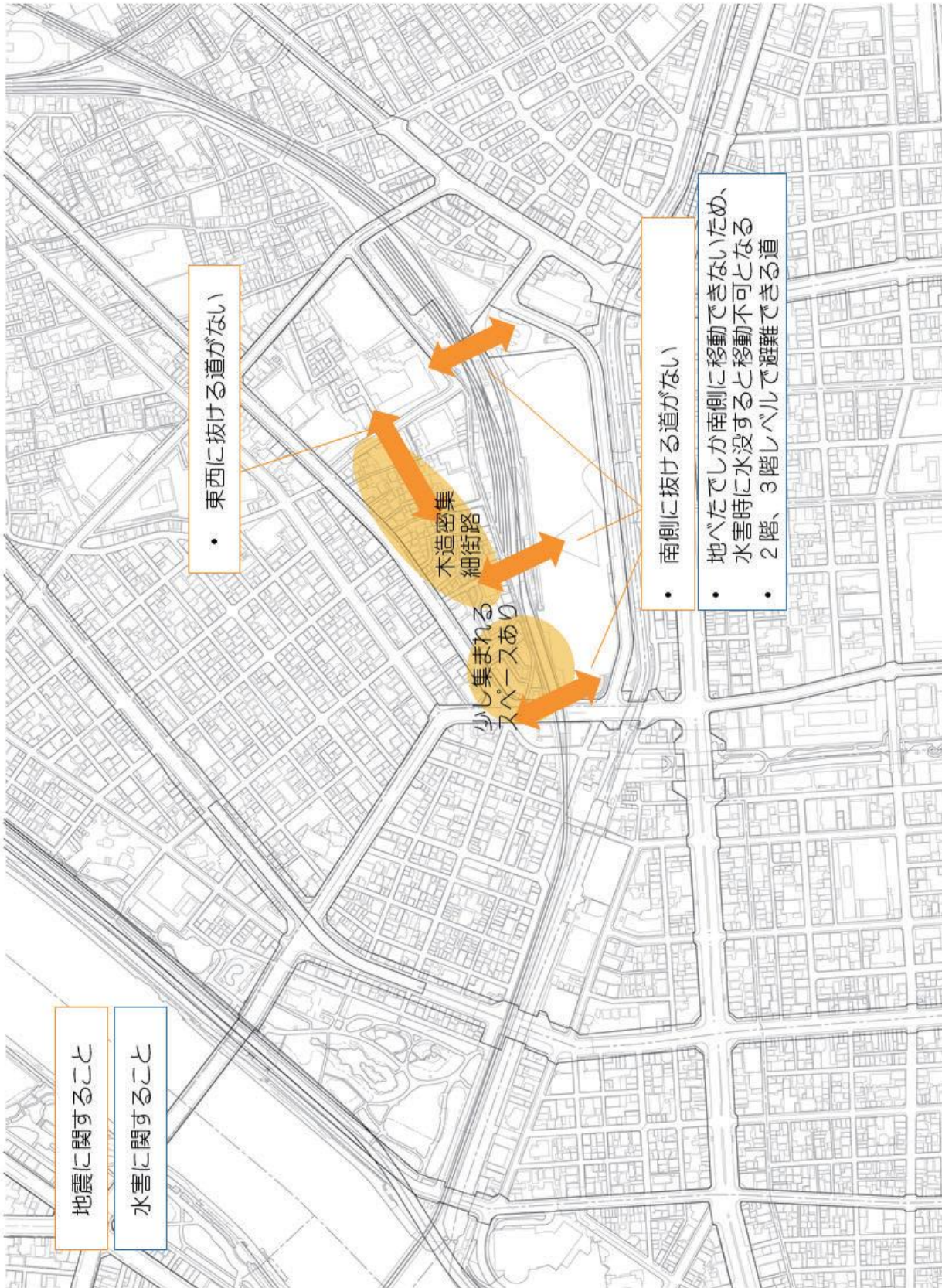
# A班

## ■地震

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	災害発生！ (建物の倒壊)	物が落ちてこない 場所に身を隠す	どこに逃げれば良いのか、どこが安全なのかといった情報が分からない	情報発信、広報を適切に行う
	災害発生直後 災害広報 避難所への誘導等	現在地の状況確認	防災無線が聞こえづらい 防災無線が日本語でしか放送されない	情報発信の手段
	緊急通行車両等の調達 人員及び救助物資輸送 延焼火災発生	一時集合場所で待機 延焼火災により、一時集合場所が危険になったら避難場所に集合	電柱が倒れる等により停電が起きる	電柱の地中化
	避難 道路障害物の除去 帰宅困難者への対応	避難場所で待機 火災の危険性がなくなり自宅に被害があるか確認	一時的に集まれる場所がない 行き止りの狭い道路 大きな通りに入る通路や避難路がない 緊急車両が入れない 空き家が大井(火災や倒壊の恐れ) 木造建物が密集している(火災や倒壊の恐れ)	一時的に集まれる広い場所を整備 避難路や抜け道を整備 空き家対策 建物の耐震化・耐火化
	自宅と指定避難所の安全な方で避難生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;その他&gt;</li> <li>地震の時に停電し、何も状況が分からず困った</li> <li>地震で指定の避難場所ではない本所高校に避難したら食料・飲料水がなかった</li> <li>木造住宅が密集しているところで自宅や周辺の建物が倒壊してしまうと道路がふさがり(道路が狭い)</li> <li>古い住宅や木造住宅など個々に建替えてもあまり効果がないので周りに一体(面的に)整備したほうが良い</li> </ul>		

## ■水害

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	発災前(24時間前)	公共交通機関の運行停止計画の公表 緊急災害対策派遣隊の受入 避難所の開設 避難指示、勧告の発表	どこに逃げれば良いのか、どこが安全なのかといった情報が分からない 防災無線が聞こえづらい 防災無線が日本語でしか放送されない	情報発信、共有、広報を適切に行う 情報発信の多言語化
	発災発生	運行停止施設保全 退避終了	車いすやお年寄り、小さい子どもがいる家庭等が動けない 垂直避難ができない人がいる 近所に誰が住んでいるのか、サポートが必要なのか分からない 電車がストップする	サポートが必要な家庭に目印をつける 早めに避難する
	発災後(避難終了)	支援の要請 運行一部再開 運行見通しの公表	マンションのエレベーターが止まり、垂直避難が困難になる	垂直避難のバリアフリー化
		運行全体再開 運行状況の公表 避難指示、勧告の継続/一部解除	避難継続/帰宅避難終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内ですぐに逃げられる高い場所がない</li> <li>近くのマンションに逃げ込みたくても入れるかどうか分からない</li> <li>スカイツリー方面に逃げたくても移動するルートがない</li> <li>地上にしか通路がないので水没すると通れない</li> <li>&lt;その他&gt;</li> <li>区からの情報が発信されていない</li> <li>区からの情報がツイッターだけだと、高齢者等のネットにアクセスできない人が確認できない</li> <li>他地区の事例研究</li> </ul>



# B班

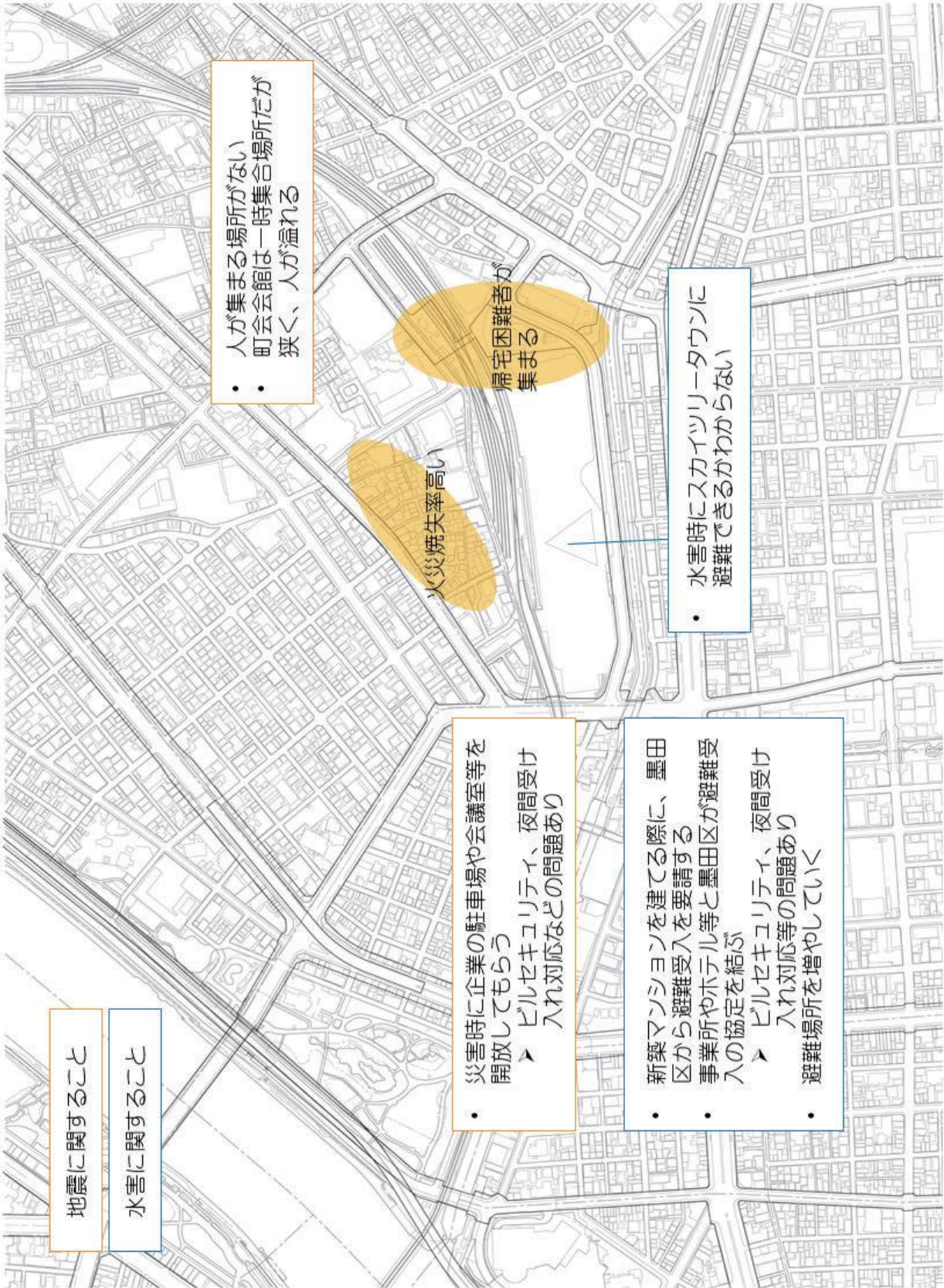
## ■地震

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	災害発生！ (建物の倒壊)	物が落ちてこない 場所に身を隠す	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な避難ルート、避難場所が分からない</li> <li>高齢者はどこに逃げればいいのか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な避難ルートの確保</li> <li>安全な避難ルートや避難場所の周知</li> </ul>
	災害広報 避難所への誘導等	現在地の状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>何を逃げていいかわからない</li> <li>避難するときの動きが分かっていない</li> <li>どこが安全なのか情報が入ってこない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の基本的な行動・所持品等の周知</li> <li>LINE等を含む多様な災害情報の発信</li> <li>高齢者はLINEだと使えない人もいるので防災無線も必要</li> </ul>
	緊急通行車両等の調達 人員及び救助物資輸送 <b>延焼火災発生</b>	一時集合場所で待機  延焼火災により、一時集合場所が危険になったら避難場所に集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣住民の顔が分からず、誰を頼ればいいのか分からない</li> <li>町会組織がしっかりしているのか、災害時に機能するのかが疑問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな地域（近所）ネットワークの構築</li> <li>地域にどんな人が住んでいるのか把握できる仕組みが必要</li> </ul>
	道路障害物の除去 帰宅困難者への対応	避難場所で待機  火災の危険性がなくなり自宅に被害があるか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会会館は狭く、人が集まると逆に混乱する</li> <li>避難できる場所が少ない</li> <li>焼失率が高いエリアがあり、道路も狭く危ない</li> <li>停電により、集合住宅が機能不全に陥る</li> <li>非常用電源はあるが、役には立たない</li> <li>停電によりオートロックが機能せず、不審者の侵入の恐れがある</li> <li>エレベーターの停止により、高齢者や高層階等の住民は移動が困難になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内に複数の避難場所の確保</li> <li>墨田区との協定締結による避難場所の確保（民間企業の会議室や駐車場など）⇒セキュリティ等の問題を解決する必要あり</li> <li>地震・火災に強い建物への更新</li> <li>非常用電源等機能不全に陥らない設備配備</li> </ul>
	自宅と指定避難所の安全な方で避難生活	<その他>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰宅困難者は電車で帰宅したいため、駅周辺や明るいところ集まると思う</li> <li>避難所となる学校は駅から離れているため、帰宅困難者は来ないと思う</li> </ul>	

## ■水害

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	発災前（24時間前） 公共交通機関の運行停止計画の公表 緊急災害対策派遣隊の受入 避難所の開設 避難指示、勧告の発表	広域避難開始 要配慮者避難開始  避難開始 広域避難完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>車で移動すると渋滞が起きるため、鉄道が止まった後は何で逃げればよいか分からない</li> <li>雨が強くなると、隅田川は渡れない</li> <li>雨風が強いと墨田区役所などの避難所に逃げられない</li> <li>いつ避難すればよいか分からない（逃げる時間はTV等の情報から判断することになる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の基本的な行動の周知</li> <li>LINE等を含む多様な災害情報の発信</li> </ul>
	運行停止施設保全退避終了	避難完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所の状況（混雑状態や物資状況等）が分からない</li> </ul>	
	<b>災害発生</b> 荒川氾濫 道路、建物浸水	最終的な危険回避行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>垂直避難できる場所は少ない</li> <li>低層階に住んでいる人の受け入れ場所がない</li> <li>マンション規約には、災害対応に関する記載がないため、受け入れは難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内に複数の避難場所の確保</li> <li>墨田区と民間企業の協定締結による避難場所確保 ⇒セキュリティ等の問題を解決する必要あり</li> </ul>
	支援の要請  運行一部再開 運行見通しの公表		<ul style="list-style-type: none"> <li>停電や設備の水没により、集合住宅が機能不全に陥る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新築マンション等の建築確認時に避難受入を要請する</li> <li>上層階へ設備の移設</li> </ul>
運行全体再開 運行状況の公表  避難指示、勧告の継続／一部解除	避難継続／帰宅避難終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂が少ないため、水が引きにくい</li> <li>2週間の避難生活は厳しい、救助は来るのか</li> </ul>		
		<その他>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水害が起きても、マンションの高層階に住んでいるため、広域避難はしない</li> <li>墨田区は高低差がないため、2週間水が引かないこともあり得る</li> </ul>	





地震に関すること

水害に関すること

- 人が集まる場所がない
- 町会館は一時集場所だが狭く、人が溢れる

帰宅困難者が集まる

火災焼失率高い

- 水害時にスカイツリータウンに避難できるかわからない

- 災害時に企業の駐車場や会議室等を開放してもらう
  - ▶ ビルセキュリティ、夜間受け入れ対応などの問題あり

- 新築マンションを建てる際に、墨田区から避難受入を要請する
- 事業所やホテル等と墨田区が避難受入の協定を結ぶ
  - ▶ ビルセキュリティ、夜間受け入れ対応などの問題あり
  - 避難場所を増やしていく

# C班

## ■地震

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	<b>災害発生！</b> (建物の倒壊)	物が落ちてこない場所に身を隠す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曳舟川通りは広域の緊急輸送道路だが、いつ通行止めになるかわからないと、西側に逃げる動線が分断されることが地域に伝わらない</li> <li>・区の緊急放送は入るが分かりづらく、聞こえない</li> <li>・電気が止まると、テレビが映らず特に高齢者などは状況が分からない</li> <li>・区のツイッターがあるのは知っているが、Wi-Fiが通じないと確認できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭に確実に情報が入ってくる機能・仕組み。高齢者など情報弱者にも届くよう、能動的ではなく受動的に受け取れる情報が必要</li> <li>・停電時も、地域で電気が供給可能な大型蓄電池などの整備</li> </ul>
	<b>災害広報</b> 避難所への誘導等	現在地の状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が起こった時どう行動してよいか分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生時の行動を示す分かり易いタイムラインの配布と地域での啓蒙</li> </ul>
避難	緊急通行車両等の調達 人員及び救助物資輸送 <b>延焼火災発生</b>	一時集合場所で待機  延焼火災により、一時集合場所が危険になったら避難場所に集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難する場所が狭く、逃げ込む場所がない</li> <li>・児童遊園や町会会館だけでは地域の人々が逃げ込む広さがなく、観光客等の来街者も来てしまったら更に足りない</li> <li>・スカイツリーなどは安全そうだが、逃げ込んで入れてもらえないのではないかと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々が全員逃げ込める、十分な広さを確保した避難する場所を整備</li> <li>・皆知っている有名な場所を協定などを結んで避難所として開放する（開放していることを地域に周知する）</li> <li>・高齢者の逃げやすさを鑑み、地下に逃げ込めるシェルター等を設置する</li> </ul>
	道路障害物の除去 帰宅困難者への対応	避難場所で待機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の際、地域の人と一緒に逃げたいと思うが、知らない人もおり、どのように声を掛けるかが難しい</li> <li>・町会の人々は知っているが、入っていない人は知らない状況</li> <li>・避難訓練も行っているが、来る人は限られている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と一緒に防災意識の向上を図る取組を日常的に実施する</li> <li>・新しい住民なども参加しやすい、住民同士が繋がる機会を設ける</li> </ul>
		火災の危険性がなくなり自宅に被害があるか確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の際、地域の人と一緒に逃げたいと思うが、知らない人もおり、どのように声を掛けるかが難しい</li> <li>・町会の人々は知っているが、入っていない人は知らない状況</li> <li>・避難訓練も行っているが、来る人は限られている</li> </ul>	
	自宅と指定避難所の安全な方で避難生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震の際の停電で、なぜ曳舟やスカイツリーは電気がついていて、この地区だけ停電なのか情報がなく分からなかった</li> </ul>		

## ■水害

	周辺の状況	災害時の行動	まちの課題	まちに必要な機能等
検討の対象とする行動	<b>発災前（24時間前）</b> 公共交通機関の運行停止計画の公表 緊急災害対策派遣隊の受入 避難所の開設 避難指示、勧告の発表 運行停止施設保全退避終了	広域避難開始 要配慮者避難開始  避難開始 広域避難完了  避難完了	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が入ってこない</li> <li>・区の緊急放送は入るが、分かりにくい、聞こえない</li> <li>・区のツイッターがあるのは知っているが、Wi-Fiが通じないと確認できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭に確実に情報が入ってくる機能・仕組み</li> <li>・高齢者など情報弱者にも届くよう、能動的ではなく受動的に受け取れる情報が必要</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が起こった時どう行動してよいか分からない、判断が出来ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いざという時の動き方が分かる、災害発生時の行動を示す分かり易いタイムラインの配布と地域での啓蒙</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難の際、地域の人と一緒に逃げたいと思うが、知らない人もおり、どのように声を掛けるかが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と一緒に防災意識の向上を図る取組を日常的に実施する、新しい住民なども参加しやすい住民同士が繋がる機会を設ける</li> </ul>
	<b>災害発生</b> 荒川氾濫 道路、建物浸水	最終的な危険回避行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い所がなく、浸水した際に逃げ込む場所がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難できる高い場所が必要。台風時だけでなく、地震→津波での洪水の場合も考慮し、倒れない強固な場所が良い</li> </ul>
	<b>発災後、避難終了</b> 支援の要請 運行一部再開 運行見通しの公表  運行全体再開 運行状況の公表  避難指示、勧告の継続 / 一部解除	避難継続 / 帰宅 避難終了		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しくつくる施設などは、必ず高い場所に避難場所を設ける等の協定を結ぶようにする</li> <li>・高齢者の逃げやすさを鑑み、地下に逃げ込めるシェルター等を設置</li> <li>・いざという時少なくとも浮かせるよう、非常用救命ボートを一家庭に一台常備</li> <li>・地域の人々が一時避難できるまとまった備蓄品を浸水しない高い場所に常備</li> </ul>



## ■ 検討のテーマ

「まちで暮らす」をテーマにまちづくりの取り組みを考える

## ■ 検討の概要

「まちの変えたいことや変えたくないこと」や「30年後のまちの過ごし方」の実現に向けて、目標(コンセプト) や実現に向けて課題となること、目標を実現するために必要なもの・ことを検討し、「まちで暮らしていくうえで大事にしたいこと」や「目指すまちづくりの方向性」など、まちづくり検討会案として地域の皆さまと共有できるものを検討しました。

各班の検討の内容は、本書4～6ページの各班のまちづくりの目標及び方向性としてとりまとめられております。

次のページから各班のグループワークの成果について掲載しております。



# A班

## 目標：コミュニティと静かな住環境を維持・発展させていくまち

一大観光地としてのスカイツリー、静かな住環境などもともとある環境の良さを維持し、人が減って閑散とした静かさではなく、人が増えても落ち着きがある、静かな住環境が保たれるような発展

### 地域コミュニティ

#### 課題となることは？

- 昔からのお祭り等のイベントがなくなり、コミュニケーションを取る機会や場所がなくなった
- アパート等に回覧板が入らないことにより、地域の情報が共有されない
- マンションの管理組合と地域の交流がない

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 場所やイベントなどの人が集まる仕組み
- まちづくりのルール

#### 取組みのアイディア

- 人が集まる場所（スポーツ施設等）を整備
- お祭り等地域のイベントを復活させる

### 住みやすさ

#### 課題となることは？

- 住む場所としてこの地域を選んでもらうには魅力が不十分
- どんな建物・用途でも建てられるため、無秩序になっている
- これからどんな店ができていくのか分からない
- 夜遅くまで営業する店があるため、静かな住環境を守ることにっては課題
- 商店会がない
- 子育て支援が不十分
- 建替えをしたいと思っても、現状の規制では建替えが困難
- 地域住民の高齢化

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 新しく住み始めた人たちを地域コミュニティに巻き込む仕掛け
- 新しくできる店と地域住民が共存できる仕組み

#### 取組みのアイディア

- まちづくりに関する規制の緩和
- 保育園の充実
- 新しい人、様々な世代の人を巻き込んだり、出会ったりする場を作る（広場等）
- 現状や住民のニーズを分析する
- 子育て世帯を呼び込む
- こういう建物を建てていこうというイメージを行政が提示
- 建替えをしやすくするために規制を緩める

### 地域産業

#### 課題となることは？

- 工場が点在している
- 新たにものづくりに関わりたいと思っている人の受け入れ場所、窓口がない

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 現状や課題を見える化する仕組み
- 新しいプレイヤーに情報を届ける仕組み
- ものづくりを継承する仕組み、仕掛け

#### 取組みのアイディア

- 工場の集約
- 可能ならば空き家を活用して、新たにものづくりに関わりたいと思っている人を受け入れる場所とする

### 安心できる環境

#### 課題となることは？

- 近隣にどんな住民がいるか分からず、住民が観光客かも分からない
- コロナの影響で夜の見回りがなくなった
- 外でタバコを吸う人などマナーの悪い人がいる

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 地域コミュニティ

#### 取組みのアイディア

- 夜の見回り等地域の見守り活動を復活させる
- 空き家対策を行う（可能ならものづくり支援と絡める）

### その他

- 賃料が安くて単身者にとって便利
- 交通の便が良い
- 持ち家や賃貸など様々な住民がいる
- スカイツリーが観光地として整備されているのに対し、周りの地域整備が取り残されている

# B班

目標：子どもと老人が集まれる場所（例えば、都営住宅跡地・東武の敷地）があるずっと住みたいと思うまち

## 地域コミュニティ

### 課題となることは？

- 新しい人が入ってきているが、昔から住んでいた人との垣根ができていく
- 町会に加入しているが、町会費を払わない人がいる
- 町会活動がコロナの影響で止まっているが、再開したところで今まで通りに出来るかわからない
- マンションの人と戸建ての人との交流がない
- マンション内でも交流がなくなってきた（交流会を開催していたが、参加者が少なくなりやらなくなった）
- マンションの理事会に参加しない人が増えている

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 子どもが住みたいと思う地域コミュニティをつくる
- 子どもや老人など横のつながりがある地域コミュニティをつくる

### 取組みのアイディア

- 子どもを通じて、子どものいる家庭に町会などの地域とのかわりを持ってもらう
- 子どもが「大人になっても住み続けたい」と思うまつりやイベント等の地域文化を開催する
- 都営住宅や鉄道高架と区画街路 11 号線の間の空地に子どもと老人が交流する公園・広場を整備する
- マンション住民と戸建て住民が融合する地域コミュニティをつくる
- 生き活きとやりがいのある地域活動が出来る場をつくる

## 住みやすさ

### 課題となることは？

- 都営住宅が古く、居住者が高齢化している
- 町会のつながりが薄くなっていく
- 民泊が増えてきており、宿泊者のマナーや騒音で迷惑している
- 来街者が増え、プランターの後ろなどにゴミを捨てていく
- マンション居住者でマナーが悪い人もおり問題が起きているが、罰則がないためマナー改善がされない
- マンションが多数、戸建てが少数となり、色々と問題も出てくるのでは
- 一方通行の道路が多く、マンションのエントランスに車を止められない

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- まちづくりの約束事をつくっていく
- 人と人のつながりがある地域活動の場

### 取組みのアイディア

- 地域コミュニティが機能していれば、住みやすさは維持できる
- 空き家を多世代交流の場（街かど食堂など）として活用する
- 民泊オーナーにルールを守る様呼びかける
- ゴミを捨てにくいと思うように、住民が地域を綺麗にしていく
- ゴミを捨てる意識を啓発する
- ルールを守ってもらうには罰則が必要なのではないか
- 住宅地と観光地をすみ分け、それぞれの動線を整理する

## 地域産業

### 課題となることは？

- 音が出るものづくりもあるため、住宅との共存がしにくい
- <現状について>
- 機能再生ゾーンには「おみねらたん」ぐらいいかない
  - ものづくりのまちで「あった」であり、現状はものづくりのまちで「ある」ではない
  - スカイツリーの墨田区産業観光プラザ すみだ まち処が閉鎖された

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 住環境に配慮したものづくり（工房）の場
- 高架下でものづくり発信

### 取組みのアイディア

- ものづくりのまちを伝承していく
- 高架下にもものづくりを発信する場を設け、墨田区全域に波及していく
- 高架下に工房を設け、メイドインジャパンの製品を販売する（来日観光客が喜ぶ）

## 安心できる環境

### 課題となることは？

- 道路の段差が多い
- 細い路地が多い
- 一方通行が多く、障がい者や要介護者の送迎等がしにくい
- スカイツリーができてから、治安が悪くなった
- 民泊が増え、騒音などで安心して眠れない

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 誰もが安全に移動できる道路空間
- 人の目が届く地域コミュニティ
- まちづくりの約束事をつくる

### 取組みのアイディア

- 民泊のルールをつくる
- 民泊のルールをオーナーに守ってもらう

暮らしに関するまちづくりの目標等は本書5ページに掲載

# C班

## 目標：全世代型のメレンゲなまち

子どもから高齢者まで、今までいた人も新しい人も、みんなが集まることで 暮らしやすさの相乗効果が生まれるまち

### 地域コミュニティ

#### 課題となることは？

- 近所に気軽に集まれる場所や機会・イベント等がない
- 子どもと共に集まれる場所や機会はあるが、同様に高齢者が集まれるような場所や機会は思いのほか少ない
- お互いの「顔」が見える近所付き合いが必要

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 今あるものや機会を活かし、多世代・多様な住民を巻き込む、地域の「居場所」を創出する

#### 取組みのアイディア

- 1日交通規制等により地域全体をオープンな会場化し、多世代が活躍できるイベントを実施する
- 例えば、様々な住民が集まるクリーンキャンペーンなどで、お年寄り体験イベントを開催するなど、相手の立場に立った行動ができるような世代間の視点がクロスする機会・イベントを実施する。

### 住みやすさ

#### 課題となることは？

- 良好な住環境のイメージに相応しいまちの緑は少ない
- 便利なまちなので、平日の通勤通学時間などは人の流れが多く、今後も減らないと思うので、「静かな」環境にはならないと思うが、充分住みやすく、今の住みやすさを維持したい

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- あらゆる世代が住みやすい住環境の維持

#### 取組みのアイディア

- 世代を問わず集まれるスペースや公園等を設ける

### 地域産業

#### 課題となることは？

- 現状の地場の産業は後継者の不足や押上ブランドとして広く認知までには至っておらず、今後続けていくのは難しいのではないか

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 将来の「押上ならでは」を担う文化や特色を創出する

#### 取組みのアイディア

- 押上ならではととなりそうな、新たな「ひと」や「もの」を発掘する

### 安心できる環境

#### 課題となることは？

- 曳舟川通り等の歩道が狭く、子どもを乗せた自転車と歩行者（特に高齢者）のすれ違いなどが危ない
- 住宅地内は行き止まり道路などがあるが、新しい住民にはあまり周知されていないため、防犯面や災害発生時に危ない

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- あらゆる世代が安全に歩ける歩行空間の創出
- 歩車（自転車）分離された安全な道路空間の創出
- 地域コミュニティを活用した防犯意識の啓蒙

#### 取組みのアイディア

- 高齢者の体験イベントなどを実施し、若者が高齢者の実際の歩行速度などを体感することで、多様な住民が安全に歩ける空間づくりへの意識を高める
- 歩行者優先ルールを徹底させる
- 有事の際自宅以外にも駆け込める地域の仕組みづくり（日常の近所付き合いの活用）

### その他

- 将来は、今の「産業」でないものも、地域の名物や特色になる可能性がある（例えば30年後の将来ならば、スカイツリーがすっかり押上の文化・特色となっている可能性もあるし、中野や高円寺の「芸人のまち」のイメージのように、地域の特色がものや産業でない場合もある）

## ■ 検討のテーマ

「まちを楽しむ」をテーマにまちづくりの取り組みを考える

## ■ 検討の概要

「まちの変えたいことや変えたくないこと」や「30年後のまちの過ごし方」の実現に向けて、目標(コンセプト) や実現に向けて課題となること、目標を実現するために必要なもの・ことを検討し、「まちで楽しむうえで大事にしたいこと」や「目指すまちづくりの方向性」など、まちづくり検討会案として地域の皆さまと共有できるものを検討しました。

各班の検討の内容は、本書4～6ページの各班のまちづくりの目標及び方向性としてとりまとめられております。

次のページから各班のグループワークの成果について掲載しております。





# A班

目標：落ち着いたにぎわいで住民も来街者も楽しいまち

## 押上らしいにぎわい

### 課題となることは？

#### （住民）

- 広場や大きめの公園がない
- 花火ができる公園が近くにない
- 牛島神社のお祭りをどう守っていくか

#### （住民・来街者）

- 地区内にあるお店を来街者に聞かれても分からない
- 住民も来街者もお店などの情報が分からない

#### （来街者）

- 地域で作られたものを売っているスペースはあるが、作っている場所、工場等と結びついていない

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

#### （住民）

- 住民が集まる、利用する場の整備

#### （住民・来街者）

- 住民も来街者も目で見てわかるような仕掛け
- 見せる情報発信
- 物を作る場所、売る場所を結びつける仕組み、ハブ機能

### 取組みのアイディア

#### （住民）

- 広場や花火ができるような公園を作る
- 大きな商業施設を建てない

#### （住民・来街者）

- 工場や史跡等をめぐるスタンプラリー
- イラストマップ

## 周辺地域とのつながり

### 課題となることは？

#### （住民）

- スカイツリーが混む
- 住宅街にはそれほど人が来なくても良い

#### （来街者）

- 決まった場所、通りにだけ人が集まる（線路沿いや川沿い）
- バスのルート、停留所が分かりづらい
- 回遊性がない
- 道路が渡れない、遠回りになる

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

#### （住民・来街者）

- 住民と来街者の共存、楽しみを両立できる仕組み
- 住宅街に配慮した施設の配置

### 取組みのアイディア

#### （住民）

- 落ち着いたにぎわいを守るためのルールづくり
- 大きな商業施設を建てない

#### （住民・来街者）

- 船でアクセスする
- 通りやすいルート、渡りやすい道路を確保
- シャトルバスを配置する
- 浅草～スカイツリー間をケーブルカーやモノレール等でつなぐ（少し上から川を渡ったり景色を楽しんだりできるように）

# B班

## 目標：緑豊かな子どもと老人が楽しめる空間のあるまち

### 押上らしいにぎわい

#### 課題となることは？

##### （住民）

- 住民（家族）が楽しめる場所が少ない
- 子どもが安全に自由に楽しめる広場的空間がない
- 住環境を悪化させる店舗等ができる

##### （来街者）

- 来街者が増えることでマナーや治安が悪化する

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 緑が多く、子どもが遊んでいる広場的空間（高架下等）
- 住民が静かに楽しめる（キラキラ商店街のような）楽しさ

#### 取組みのアイディア

- 高架下に広場的空間を設ける
- 都営住宅および鉄道高架と区画街路 11 号線の間の空地への公園・広場の整備（土日に大道芸イベントをやるぐらいのにぎわい）
- 路地の魅力を活かし、空き家をカフェ等にリノベーションするなど現在の風景を変えない静かなにぎわいをつくる
- 静かな住環境を守るためのルール作り（民泊、ワンルームなど）
- 住居系の用途地域へ変更する
- 定住を受け入れるようなにぎわい・楽しさを作る
- まちの良さを残しながら、段階的に活性化して

### 周辺地域とのつながり

#### 課題となることは？

##### （来街者）

- 外から来た人がルートがわからず、まちに入ってくる
- ミズマチからスカイツリーへ歩いている人がいるが動線が不便である

##### （その他）

- 鉄道の高架化や幅員の広い道路で、まちが分断されている
- ターミナル駅である押上・とうきょうスカイツリー駅のポテンシャルが活かされていない

#### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 住民向けの楽しさと来街者向けの楽しさの共有

#### 取組みのアイディア

- 地域の分断（鉄道高架・道路）を感じさせないにぎわいづくり
- 住民や来街者（昼間人口）が増えるようなポテンシャルを活かしたにぎわいづくり
- レール等でつなぐ（少し上から川を渡ったり景色を楽しんだりできるように）

#### その他

- 機能再生ゾーンににぎわいは必要ない。
- 高架下に商業施設を入れたにぎわいは必要ない。
- 静かに過ごしたい。
- 南側と同じようにはなりたくない。商業施設は南側にある。
- 曳舟駅のような高層建物のにぎわいは必要ない。
- 街がにぎわうとごみのポイ捨てやマナーが悪い人が来て、ルールを守らない。
- 来街者を街に来ないように誘導することは出来ない。
- 人が集まる施設はいらない。
- 集客施設はすでに充分あるため、これ以上はいらない。
- 周辺とつながる必要性がわからない。
- 墨田区の人口密度は、都内でも高いため、これ以上人が来る必要はない。
- 機能再生ゾーンに必要なまちづくりは、住環境の向上と防災性の向上で、にぎわいの向上は必要ない。

# C班

目標：うれC、たのC、おいC、「うけち」タウン ～元々あったものを再発掘～

## 押上らしいにぎわい

### 課題となることは？

- 「新たなにぎわい」といっても、スカイツリー以外の名物・名所が思い浮かばない。行きたい場所が少ない。スカイツリーのにぎわいにもじみだしていない。
- 歩く動線はあるが、周りに休憩できるようなスペースや、カフェなどのちょっと留まれる店・施設が何もない。
- 新しい居住者や来街者にも紹介したいような、お祭りなどの地域のにぎわいがあるが、紹介するツールや人が存在しない。（新しい居住者はマンションの掲示板などでたまたま知ることができる状況。）
- にぎわいが生まれるのは良いが、にぎわいすぎるのもこの場所にはそぐわない。（ほどほどのにぎわいがよい。）

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 既存の良いもの（にぎわい）を再発掘する
- 「にぎわい」に来てもらえる情報発信の仕組みを考える

### 取組みのアイディア

- スカイツリーとすみ分けられるにぎわいを探す
- お祭りやおみこしなど、押上（下町）ならではのイベントやそのツールを、見て、触って、体感できる仕組み・仕掛けをつくる
- また、例えば「江戸弁講座」など、ものだけでなく、ソフト面のにぎわいに繋がる仕組みを考える
- 空き家などを活用して、ちょっと休めるカフェなどをつくる
- 住民が「にぎわい」ガイドになる（昔からの住民の活躍の場となる）

## 周辺地域とのつながり

### 課題となることは？

- 区内同様に、周辺地域とつながる動線はあるが、動線上に休憩できるようなスペースや、カフェなどのちょっと留まれる店・施設が何もない。
- にぎわいが波及するのはよいが、マナーが悪くなるのは心配。

### 必要なもの・ことは？（まちづくりの方向性）

- 周辺地域とつながる、「周りもおいC」コラボレーションするものをつくる

### 取組みのアイディア

- （住民）
- 風情あるにぎわいに繋がる、風の盆やよさこいなど他の地域の文化的なお祭りなどを呼び、イベントを行う

### 取組みのアイディア（共通）

- 区内や周辺地域をまわる仕組み・仕掛けを考える
  - ・スタンプラリーの実施
  - ・季節ごとやルート別の「うけち探検マップ」をつくる
  - ・歩く動線上に出店などを設ける

## ■ 検討のテーマ

「30年後の過ごし方を想像し、まちづくりの方向性を考える」を  
テーマにまちづくりの取り組みを考える

## ■ 検討の概要

鉄道高架化による南北市街地の一体化や高架下の利用、道路や交通広場の整備等により、30年後のまちには、住民だけでなく様々な人が訪れ、まちで過ごすことが予想されます。

そこで、まちづくりの方向性を考えるため、30年後のまちをイメージしながら、まちに関わる人物像になりきり、具体的な行動を検討しました。

まちに関わる人物像は、押上の将来の可能性の検討内容を踏まえ、次のように設定しました。

- 住 民** 子育て世帯 単身世帯 老夫婦世帯
- 来街者** 旅行好きな世帯
- 働く人** ものづくりに携わる世帯 観光業で働く世帯

各班の検討の内容は本書7～10ページの「各人物像の過ごし方」としてとりまとめられています。

次のページから各班の「想定する人物の30年後の行動」を検討したグループワークの成果について掲載しております。



# A班

**住民 単身世帯**



**田中さん**

**世帯構成**

本人（34歳）

**■経歴**  
30歳まで海外で仕事をしていましたが、日本に帰国し、押上に住み始めた。現在は、来街者向けに鉄道高架下で工艺品等の販売を通して、墨田区の情報発信を行っている。

**■暮らしかた**  
平日：日中は仕事をしており、帰りに駅前で買い物をする。  
休日：友人と川沿いや公園を散歩したり、カフェテラスに行ったりする。

**■趣味**  
まちの散歩  
食べ歩き  
人との交流

**来街者 旅行好きな世帯**



**中村さん夫婦**

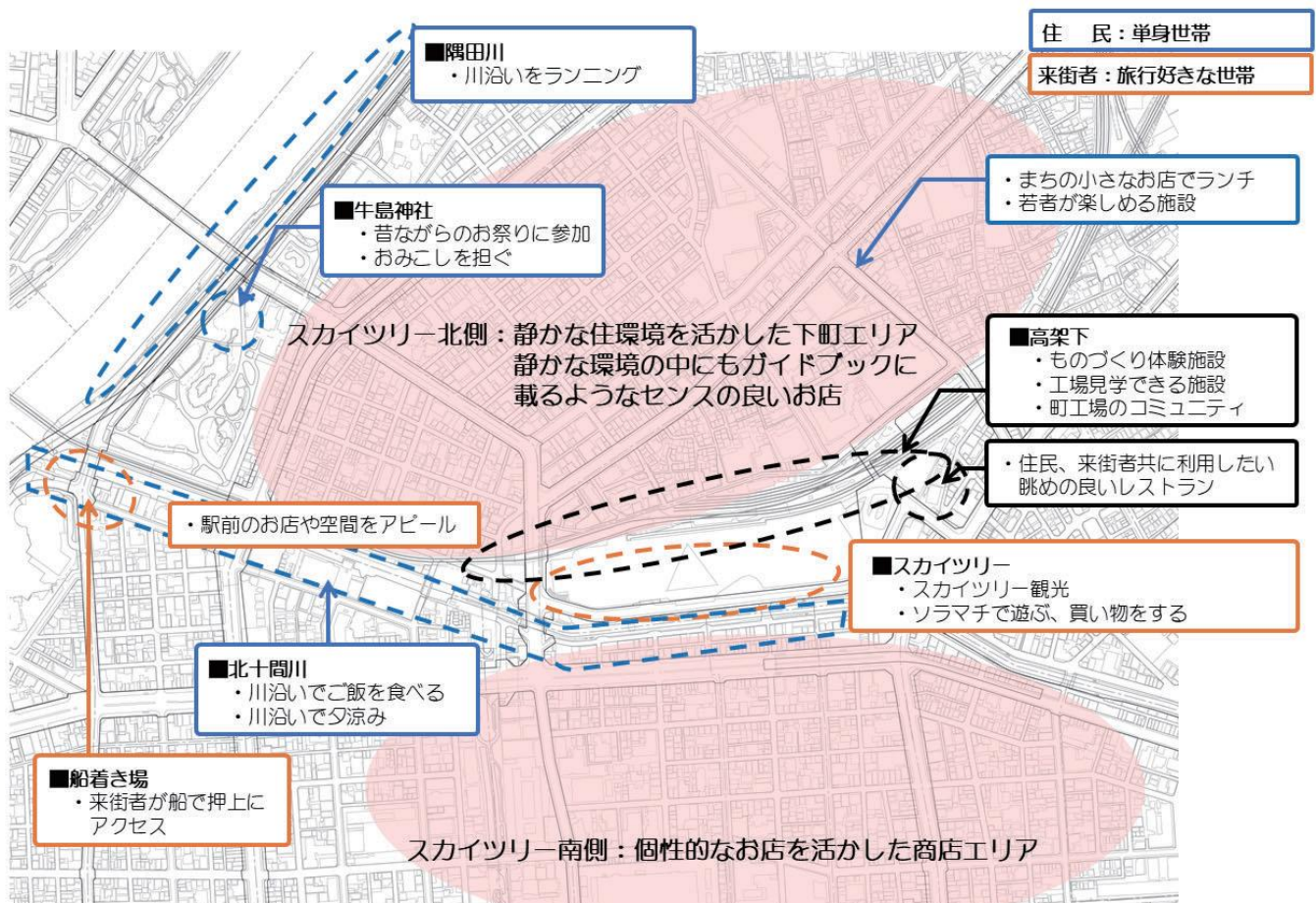
**世帯構成**

妻（54歳）  
夫（55歳）

**■経歴**  
結婚を機に静岡に住み始める。2人でよく旅行をして思い出を作る等、仲が良い夫婦。夫婦ともに市内のオフィスに勤務しており、子供たちは独立して夫婦2人で暮らしている。

**■暮らしかた**  
平日：夫婦ともに日中はオフィスで働いている。  
休日：夫婦で電車や飛行機を利用して、県外に旅行することが多い。旅先では博物館や美術館を訪れる。

**■趣味**  
妻：旅行、博物館・美術館巡り  
夫：旅行、カメラ



各人物の過ごし方は本書8ページに掲載

# B班

**住民 老夫婦世帯**



**伊藤さん夫婦**

**世帯構成**

妻 (67歳)  
夫 (67歳)

**経歴**  
千葉県に住んでいたが、下町の雰囲気気に入りに、押上に戸建て住宅を建てて引っ越してきた。現在、押上に20年ほど住んでおり、子供たちは独立して夫婦2人で暮らしている。

**暮らしかた**  
平日:それぞれ趣味の習い事やボランティア活動をして過ごす。  
休日:公園を散策したり、近所に食事に出かけたりする。

**趣味**  
妻:生け花  
夫:書道、散歩

**働く人 観光業で働く世帯**



**加藤さん夫婦**

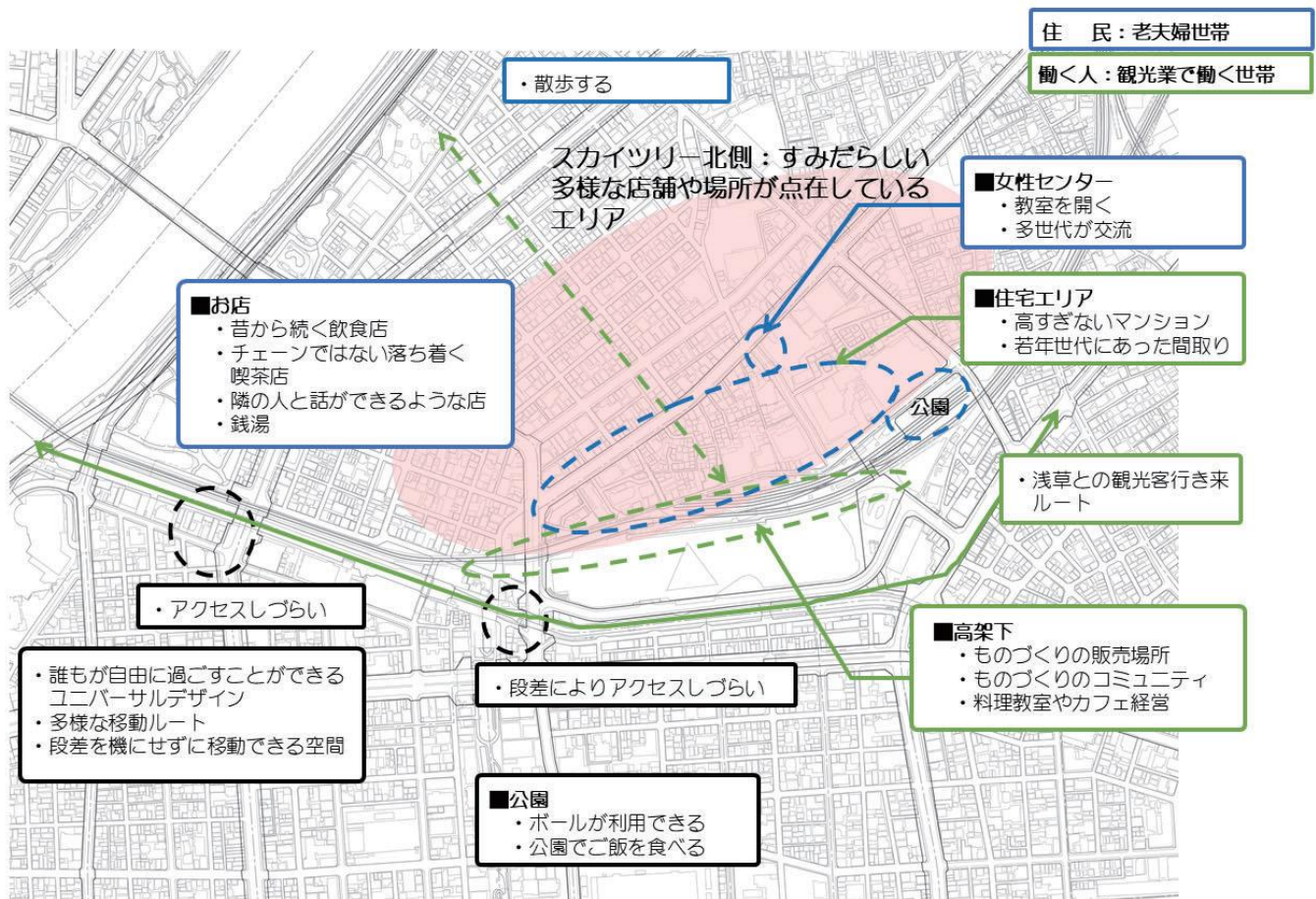
**世帯構成**

妻 (33歳)  
夫 (35歳)

**経歴**  
結婚を機に、墨田区内にマンションを借りて住み始めて5年になる夫婦。夫婦ともに昔ながらの工芸品を扱うお土産ショップで働いている。

**暮らしかた**  
平日:日中は工芸品を扱うお土産ショップで働いている。平日の定休日の時は近くのカフェやレストラン等お店を散策している。  
休日:日中はお土産ショップで働いている。


**趣味**  
妻:お菓子作り  
夫:料理、食べ歩き



各人物の過ごし方は本書9ページに掲載

# C班

**住民 子育て世帯**



**高橋さん家族**

**世帯構成**

妻 (40歳)  
夫 (43歳)  
長男 (9歳)  
次男 (6歳)

**経歴**  
妻は結婚を機に、とうきょうスカイツリー駅周辺のマンションに住み始める。子供が大きくなったので、パートを始めた。夫は独身時代から墨田区に住んでおり、平日は都心へ通勤。長男・次男は近隣の学校に通う小学生。地元のサッカークラブに通っている。

**暮らしかた**  
平日：夫婦は、日中は仕事をしている。長男と次男は、学校が終わった後、公園や路地裏で友達と遊ぶ。  
休日：長男と次男のサッカーの試合の日には、両親そろって応援に行く。

**趣味**  
妻：ショッピング、ヨガ  
夫：ウォーキング  
長男・次男：サッカー

**働く人 ものづくりに携わる世帯**



**小林さん夫婦**

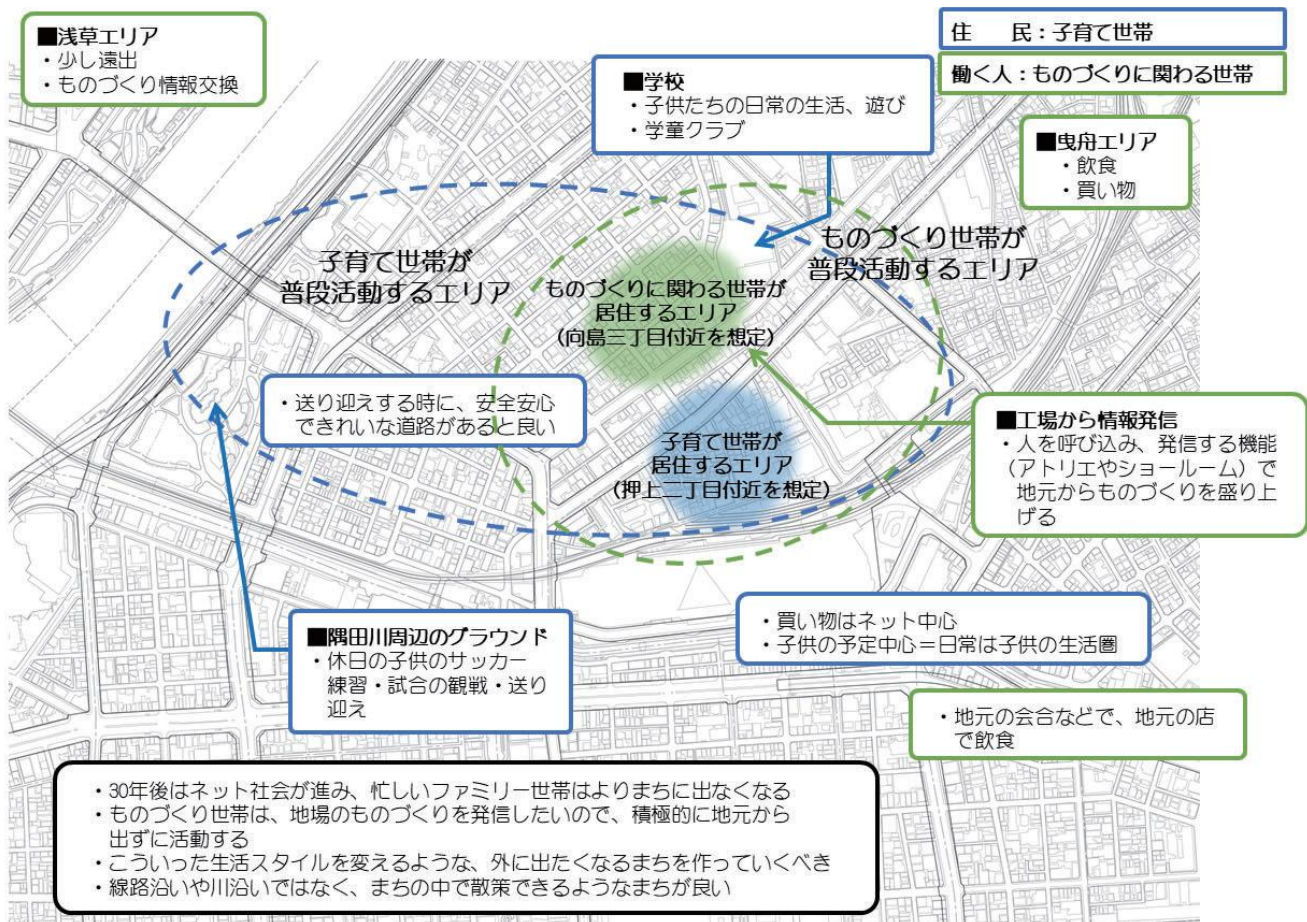
**世帯構成**

妻 (36歳)  
夫 (40歳)

**経歴**  
墨田区出身、町工場の3代目で金属加工業を営んでいる。数年前に工場を継いで、自宅兼工場で働いている。小学生の工場見学を受け入れる等、ものづくりを次世代に継承することに熱心な夫婦。

**暮らしかた**  
平日：仕事が終わってから夫婦で買い物して、夕飯は近所で食事することもある。  
休日：ときどき一緒に近隣の公園までジョギングをしている。

**趣味**  
妻：映画鑑賞、ジョギング  
夫：近所の店に飲みに行く



各人物の過ごし方は本書10ページに掲載

令和4年12月作成

本冊子において、出典の記載のない地図については、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号) (MMT 利許第 04-K107-3 号)